

## Seeking for Sexual Identity : Homosexuality and Homoerotic Desire in Henry James's Novels

齋藤, 彩世

<https://doi.org/10.15017/1654597>

---

出版情報 : 九州大学, 2015, 博士 (文学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 : 全文ファイル公表済

氏 名	齋藤 彩世			
論 文 名	Seeking for Sexual Identity: Homosexuality and Homoerotic Desire in Henry James's Novels (セクシャル・アイデンティティを求めて—ヘンリー・ジェイムズ作品における同性愛)			
論文調査委員	主 査	九州大学	准教授	高野 泰志
	副 査	九州大学	教授	小谷 耕二
	副 査	九州大学	教授	鶴飼 信光
	副 査	九州大学	教授	吉井 亮雄
	副 査	京都大学	教授	水野 尚之

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は Henry James (1843-1916) の作品を同性愛というテーマから読み解き、作家の伝記と作品を綿密に読み解くことによって新たな側面を見出した研究である。

James の作品はこれまで一般的にアメリカとヨーロッパの文化の違いを主題とした初期、国内の社会問題に主眼を置いた中期、再び国際テーマに着手した後期の 3 期に分類するのが通例であったが、この分類では中期に突然異なる主題を扱い始めたことを十分に説明できておらず、また 3 期のはざまに書かれた作品群の位置づけも明確ではない。しかし同性愛というモチーフを中心に James の作品群を再編成してみると、そこには非常にはっきりとした一貫性が見られる。これまで長年にわたって理解されてきた枠組みを同性愛のモチーフから再構築することで、James 作品の新たな側面を明らかにすることが可能になることを論証する論文である。

全体を総括した第 1 章の Introduction に続き、第 2 章、第 3 章、第 4 章では著者が第一期として分類する作品群から“The Romance of Certain Old Clothes”、“The Friends of the Friends”、*Washington Square*、*The Portrait of a Lady* を取り上げる。優秀な兄 William に対する憧憬と嫉妬という複雑な感情が徐々に同性愛的欲望に転じていく過程を論じるとともに、初期作品ではそれが異性愛関係に転化して描かれていることを指摘している。また第 5 章、第 6 章では第二期の作品群から *The Bostonians*、*The Princess Casamassima* を対象に、これまでは社会問題に関心を持つ時期として理解されてきたが、実のところそこには同性愛関係が社会規範によって妨害される様子が描き出されていることを明らかにしている。続く第 7 章、第 8 章、第 9 章は第三期から *The Spoils of Poynton*、*The Other House*、*The Turn of the Screw* を考察している。この時期はこれまでは James 晩年の円熟期への準備期間としてみなされていたが、オスカー・ワイルド裁判などの社会的事件の影響を受けて同性愛者の描き方が大きく変化した重要な時期として考えられることを論じている。これ以前の作品では無自覚的な同性愛者を対象にしていたが、この時期の James は自覚的な同性愛者が社会的にどのような苦境に置かれているかを描いていると主張している。第 10 章、第 11 章では第四期から *The Ambassadors*、*The Wings of the Dove* を考察し、James が同性愛にも異性愛にも踏み込むことが出来ず、恋愛関係を構築できない自分のセクシャリティを受け入れようとしている様子を読み込んでいる。これ以前には劣等感を抱いていた自分のセクシャリティを芸術作品に昇華していく中で、最終的には肯定的に受け入れられるようになっていたと主張し、論を締

めくくっている。

Henry James の同性愛的傾向を論じる研究自体は珍しくはないが、本論は一部の作品だけを取り上げるのではなく、James の作品全体を改めて見直すことによって、同性愛を中心にしてすべての作品が発展的に展開されていることを指摘したものであり、James 研究においてきわめて重要な意味を持つものであると思われる。以上のように本調査委員会は本論文の提出者が、博士（文学）の学位授与にふさわしいことを認める。